

プロジェクト名称

## 会津坂下町／東大宮連携支援プロジェクト

プロジェクト活動概要

メンバー：鈴木翔太(リーダー)、尾形昌彦、橋本祐樹、篠木万理恵、桜井拓也

東日本大震災の影響により、東北地方は風評被害に苦しんでいる。一方首都圏では、被災地のために何とかしたいという声も少なからずある。本プロジェクトでは、会津坂下町と東大宮をモデルとし、支援者と被災者双方の活動や想いを繋げること、現地の産業復興の一役を担うこと目的とする。

今年度は、①学園祭や東大宮のお祭りに出店し、被災地の人は何を思っているのか、支援したい人は何を考えているかの情報収集・提供を行うこと、②本プロジェクト以外の団体と協力し交流ツアー等を企画することを主な活動とする。

このような活動、つまり間接的・直接的なふれあいを通して、よりお互いを理解し長期的・継続的に支援・交流する仕組みを作りたい。

活動状況報告 & 活動写真など【活動期間：2011年6月1日～9月30日】

主な活動内容

6～7月：プロジェクト採択、東大宮サマーフェスティバル(SF)関係者との交渉

8/4,5：東大宮(会場設営、会津産米を使用したおにぎりの販売、メッセージボード記入、アンケート収集)

8/6,21：オープンキャンパス(活動紹介)



＜会場設営＞



＜おにぎり販売＞



＜メッセージボード記入＞



＜アンケート収集＞

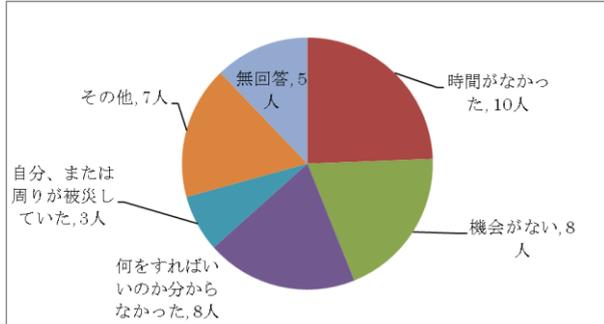
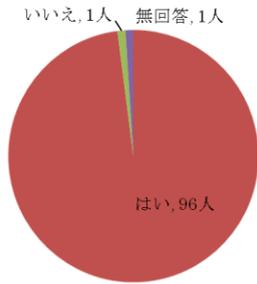
### 【東大宮サマーフェスティバル】

出店に際して、実行委員の方や東大宮5丁目自治会の方に大きなご協力をいただいた。参加させていただき、住民の方とのお話やアンケートを通じて、皆さんがどういう気持ちでいるのが形として分かった。

まとめると、支援したいという気持ちはみんな持っているが、時間・機会・情報が無いために、行動に移せないという現状である。支援したことのある活動で一番多かった募金も、それ以外の活動がわからないので募金だけしかできないという背景が一部にはある。

**現地での情報、何を求めているのかという情報の発信が今後一番重要になってくる**と考える。今後のヒアリングから得た情報を、たとえば東大宮地区や見沼区などにある地域の新聞などといった媒体を通じて発信していけるかを考える。

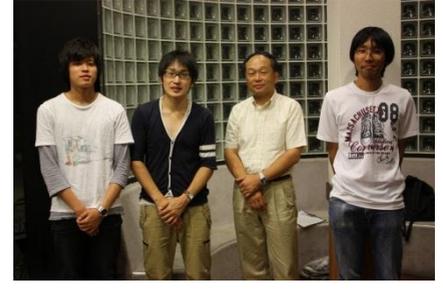
<アンケート一部抜粋> (左)支援したい気持ちはあるか(右)支援活動をしなかった・できなかった理由は？



回答数  
98人

※(右)  
複数回答あり

## 9/15~18:会津現地調査(関係者ヒアリング、会津交流ツアー下見、)



### <町役場関係者とのヒアリング>

#### 【現地ヒアリングに関して】

会津坂下町 産業部商業観光班 副主幹の舟木健治様にお話を伺うことが出来た。ヒアリングの結果を【被災を免れた人に望むこと】【放射性物質に関して】【農業・商業に関して】と分類をし、下記に一例を示す。

#### 【被災を免れた人に望むこと】

◆ **正しい理解**をしてもらいたい。それが一番大事で支援の第一歩

※正しい理解とは・・・

放射性物質という目に見えないものが相手なので、現地としても国が出した基準を信じるしかない状況であることなど。福岡で起こった「トラックがくると放射性物質がまき散らされる恐れがある」などという過剰反応は残念に思う。

#### 【放射性物質に関して】

- ◆ 震災前の数値がわからない。騒いでいる人たちの中では「震災前=0」という認識がある気がする。
- ◆ 妊婦や子供がいる方が特に気にしている。
- ◆ 今現在、被害が明るみに出ていないが、数年、十数年後など、将来的に出た被害に対して国はどう保証などを考えているのか心配

#### 【農業・商業に関して】

- ◆ これから米が出荷される。基準は500ベクレル。売れないと農業が続けられない。
- ◆ 国は農業が続けられなくなったときの保証はしっかりと考えているのか。
- ◆ 大手メーカーは、疑わしいものはすぐに排除する。大手が取り扱わないと、小売店や卸売りも手を出さない。結果、被災を免れた地域のスーパーなどには並ばない。  
→ **買いたくても買うことができない。この市場原理は疑問を感じる。**
- ◆ 市場流通の業者が自分を守るために契約農家を切った。団体に所属している人も、個人個人に話を聞いてみると意見が割れることがあった。**気にしない人でも売りに出されなければ買えない。**

ヒアリングの最後に・・・

## 【私たちの活動に望むこと・協力体制について】

- ◆ **人と人のつながり**を作ってほしい
- ◆ ツアーには、遊覧観光ではなく、何か団体(JAなど)に所属して人がいるとこちらも話がしやすい。
- ◆ 体験型のツアーを提供するのがこちらのスタンス
- ◆ 「何かを一緒に行く」がキーワード。一緒に汗を流すなどして、交流できたらよい。
- ◆ 役場や青年団が利用している旅行関連の会社にお問い合わせできる。
- ◆ 学園祭や生協・食堂などで利用するのも協力できる。
- ◆ 企画のチェックは可能
- ◆ **会津は元気です！！！！**



＜交流ツアー下見：現地の方との交流＞

## 今後の活動計画、目標、意気込みなど

### 今後の活動計画

- 11/3～5: 芝浦祭出店(会津産馬肉・米を使用したカレーを販売)
- 11/19,20: 会津交流ツアー(東大宮と会津の人々がお互いを知り、語らう場の提供)
- 12月以降: 来年度方針決定、引き継ぎ、メンバー募集、報告書作成

サマーフェスティバルや現地視察を通して、両地域が何を考えているのかが、少しずつ見えてきた。

これから、自分たちの活動の中で一番のコアな部分、「人と人の交流」をメインにしたツアーの企画などの内容徹底などが始まるので、ぜひとも両者を繋げたい。

企画の特徴としては以下の通り。

- ◆ 会津・首都圏両地域の各世代・各職種間のふれあい・情報交換を通して、両地域が抱えている悩み・問題などを共有し、解決へのアプローチとする。
- ◆ 会津の観光資源や名産物を活用することで、地元経済を支援するとともに、見学やイベント参加などをより、生産現場に肌で触れる体験をする。

＜右：ツアー告知用ポスター案＞

福島県出身の大学生が企画する  
**会津交流ツアー!!**  
おいしく!楽しく!元気な会津を  
私たちがご案内させていただきます!!  
日時: 2011年11月19日(土)~20日(日)  
募集人員: 35名  
費用: 25000円(予定)  
主催: 会津坂下町/東大宮連携支援プロジェクト  
(芝浦工業大学内学生プロジェクト)  
概要: